

(中間論点整理) 国府支援学校の機能強化について (案)**I これからの国府支援学校の在り方****1 本県の知的障がい教育を先導する役割**

知的障がい教育の基幹校として、児童生徒一人一人の障がい特性に応じたきめ細やかな学習内容を保障するとともに、with コロナ時代における知的障がい児のための「新しい生活様式」を実現し、全ての児童生徒がのびのびと個性や自主性を発揮できる教育を推進する。

2 ダイバーシティな地域社会を先導する「新たな教育内容」の実現**(1) 地域と一体化したキャリア教育の推進**

- ・地域を学習の場として児童生徒のキャリア形成を促す「地域一体型のキャリア教育」を推進する。
- ・教育と福祉が連携し、相乗効果を発揮する「新たな教福連携モデル」を構築する。
- ・小学部段階からの農業体験など低年齢からのキャリア教育の充実を図る。

(2) 知的障がい者の文化・スポーツ活動の充実

- ・地域住民参画型の創作体験、演奏会、障がい者スポーツ活動、各種の催し物などを通して、児童生徒の生涯学習につながる文化・スポーツ活動の充実を図る。

(3) 地域と連携した防災教育の推進

- ・住民と共に避難訓練や防災学習を実施し、地域の防災教育の拠点となる。

3 「新たな専門性」を向上するネットワークの構築

精神疾患等の「新たな専門性」を他の特別支援学校と相互に提供しあう「特別支援学校間ネットワーク」の基幹校の役割を担う。

II 施設整備の方針**1 基礎的な教育環境**

- ・将来の在籍者増加を踏まえ、多様な教育的ニーズと「新しい生活様式」に対応できる普通教室、特別教室等の教育環境を整備する。

2 キャリア教育を支える施設

- ・地域や企業等との協働を通じた職業スキルの獲得に向け、実習カリキュラムに必要な設備等を備えた技能実習室や、多目的作業室を整備する。
- ・生徒が身につけた職業スキルを地域住民等へ披露し、特別支援学校に対する理解促進を図る地域活性化室（仮称）を整備する。

3 文化・スポーツ活動を支える施設

- ・地域における知的障がい児の文化・スポーツ活動の核となる体育館、多目的活動室を整備する。

4 地域の防災拠点となる施設

- ・施設のユニバーサルデザイン化と共に、災害発生時の要援護者への支援を含めた避難所機能を強化する。

5 新たな専門性の向上を支える施設

- ・発達障がいや精神疾患等を併せ持つ児童生徒の心理的安定と才能の開花を目指す個別トレーニング室を整備する。
- ・ICTを活用した遠隔による事例研究支援を実現するセンター的機能室を整備する。